



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 21 R7. 02. 01

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail [shimomura-masahiro@education.saga.jp](mailto:shimomura-masahiro@education.saga.jp)



学校 HP

## さあ次だ！最後まで諦めない気持ちが合格につながる あきら —共通テスト終了—

先月 18 日、19 日の 2 日間、新たな学習指導要領に対応した初めての大学入学共通テストが実施されました。

国語では実用文が初めて取り上げられ、複数のグラフも参照して考えさせる問題が出題されました。英語では原稿を訂正する設定で「書く」力を図る内容の出題がありました。その他の教科を見ても、身近な場面やテーマに関する資料・図表の読み解きなど、思考力や判断力、表現力を問うこれまでの共通テストの傾向が一層色濃くなったようです。

したがって本校の皆さんは基礎知識の定着とともに主体的に課題を設定して解決を目指す探究型の学びの姿勢を鍛えていく必要があります。本校が“主体”と“探究”をキーワードにする所以はここにもあるわけです。

3 年生にとっては初めて迎える大勝負という人も多かったでしょう。「平常心で」とはいうものの、緊張感に押しつぶされそうになった人もいたのではないのでしょうか。



緊張感からの心と体の反応は自分の限界を超えるための準備なのだと考えましょう。緊張するのは当然です。むしろ緊張感があるからこそいいパフォーマンスが出せるのです。

共通テストでいい得点を出せた人にはこれまでの学習の積み重ねとメンタルの強さに心から敬意を表したいと思います。同時にうまく力を出し切れなかった人にも“必ず次がある”と強くお伝えします。

ある大手予備校が毎年現役合格者を対象として合格理由を尋ねる調査で、長年不動の 1 位の回答は「最後まで諦めなかった」です。このひと月間の追い込みで伸びるケースを私もたくさん見てきました。むしろ現役生はここから伸びる。これからは“志望校に特化した試験対策”と“読み取りと計算の簡単なミスをなくすこと”を徹底しながら得意分野で自信を高めて本番に臨んでください。

## これから自立する皆さんへ あきら —高校時代にやっておくべき生活上の基本—

高校を卒業すると一人暮らしを始める人もたくさんいるでしょう。自宅から通う人もいるとは思いますが、それでも、自立度は高校より格段にステージが上がります。

そこで高校時代にやっておいた方がいいことを箇条書き的に 4 点お伝えしましょう。1・2 年生の皆さんも早い段階から意識的に取り組んでください。



1 つめは、何と云っても自分で生活リズムを整えられるようにしておくことです。特に 1 日の始まりである朝の時間管理が大切です。例えば、①自分で決まった時間に起きる、②充電済みのスマホや財布などの貴重品をそろえる、③朝ご飯を 20 分以内で食べる、④顔を洗い、歯を磨く、⑤天気予報を見て天気

や気温に合わせた服装や雨具の準備をする、⑥時間より最低でも10分以上前に着くように家を出る、といったことです。

2つめは、スマホとの適切な距離を取ることです。今も家族で使用時間などを決めていると思いますが、そのルールを自分で決めて家族や友人など、他者と共有するという行為自体があとあと効いてきます。

3つめは、中長期的な課題（取り組むべきこと）に対しては、優先順位をつけて計画を立てられるようにしておくことです。例えば、試験の準備は1週間から1か月間ぐらいのスパンで計画が立てられるでしょうか？ 複数のやるべきことに優先順位がつけられるでしょうか？ 「すぐやる、すぐできる」の精神を持っているでしょうか？

4つめは、思春期は得てして「人目が気になる」「悪目立ちしたくない」「人並みでいい」「失敗したくない」といった思いが強くなるもの。でもそこに過度にはまりすぎないことです。自分が弱点と思っていることも見方を変えれば強みになります。自分を信じること、失敗を恐れず、むしろ失敗を愉しむこと。25歳まではトライ&エラーばかりでいいんです。

いずれにしてもこれらのことは高校の早い段階から意識してほしいと思います。生活のリズムを正し、完ぺき主義やスマホ依存に陥らず、来るべき卒業後の日々に備えましょう。

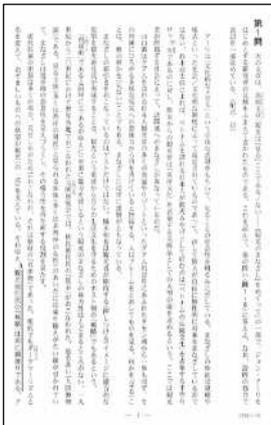
## あながち的外れではないと思うこと - 国語の問題は受験生へのメッセージ

国語の入試問題を見るとその学校（共通テストの場合は“国”）が何を大切にしようとして

いるのかが透けて見える気がします。これは教員になっていろいろな大学の問題を解き比べて初めて感じてきたことです。でも自分が受験生の頃も大学によっては「いい文章だなあ」とか、「詰まんない問題だなあ」と思った記憶はあります。

「国語で取り上げた文章に大学のカラーが出る、受験生へのメッセージが込められている」と言ってもいいのではないかな。こう思ってくれる先生は結構いらっしゃると思います。いわば受験生へのメッセージがそこにはあるのです。（ない場合は大した大学ではないのかも!?)

1・2年生は、手始めに自分の志望校がどんな文章を出題しているのか調べて、その出典となっている本の読書から始めてもいいのではないのでしょうか。一層好きになればシメタものだし、合わないと思ったら、好きになるように自分の考え方を変えるか、逆にその大学に固執する必要はないのかも！



### 【当面の主な予定（2月前半）】

- 1日（土）駿台模試・全統模試（1・2年）
- 2日（日）2年合同学習会
- 4日（火）高校入試特別選抜
- 8日（土）3年セミナー
- 10日（月）3年最終登校日
- 13日（木）学年末考査（1・2年18日まで）



（閑人閑話）年明け早々伊万里ハーフマラソンを走った。教員になって初めて勤務した地を走るのには心地よかった。▼スタート前はどれくらいペースで走ろうか決めかねていた。もちろん自分との勝負なので過去のタイムのどのあたりを出せばよしとするかというレベルの話だ。▼最初の5キロくらい、周りのペースは軽快で僕自身まあまあラップ。ちょうど数メートル先に目標にすべきペースの人を見つけた。その人は女性でピカチュウの被り物をして、シャツもタイツも黄色。スピードもいい感じ。目印としては最適。▼それにしてもマラソン大会で着ぐるみを着ている人には本当に敬服する。だって僕自分は走るのに精一杯で、着ぐるみを着て沿道に手を振りながら走る余裕なんて少しもないから。案の定、そのピカチュウ氏もまあまあいい速さを保ちながら「ピカチュウ頑張れ〜」なんていう子どもの声援を受けている。うらやましい。▼伊万里湾大橋を渡った後半戦、ランナーの中には足がつつたりエネルギー切れで歩き始めたという人も目立ってきた。▼するとどうあろう、そのピカチュウ氏はいちいち立ち止まり「大丈夫ですか」と声をかけているではないか。僕はこれ幸いとそのたびごとにピカチュウ氏を追いつく。しかし氏も声掛けの後またさっそうと走りだし、僕を軽々と追い抜いていく。▼ゴール後に分かったこと。くだんのピカチュウ氏のゼッケンには「メデイカルランナー（看護師）」と書いてあった。素晴らしい人だなあ。なんか心が軽くなった気がした。（弓口）